

# 創造界限エリアマップ



CREATIVE CITY YOKOHAMA

文化芸術創造都市横浜



横浜市にぎわいスポーツ文化局創造都市推進課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10 tel: 045-671-3868 e-mail: nw-sozotoshi@city.yokohama.lg.jp

2025年3月発行

FORMER DAIICHI BANK YOKOHAMA BRANCH, STEEP SLOPE STUDIO, ZOU-NO-HANA TERRACE, HATSUKO-HINODECHO AREA, THE BAYS, ART CENTER NEW, SUBURBS PART ACTION, ACY, ART REAL ESTATE, BUKATSUDO, GRADUATE SCHOOL OF FILM AND NEW MEDIA, TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS, YOKOHAMA TRIENNALE, YOKOHAMA JAZZ PROMENADE, YPAM, JAPAN-CHINA-KOREA INTER-CITY CULTURAL EXCHANGE PROGRAM, CCNJ

# CREATIVE CITY YOKOHAMA

## 横浜市の創造都市施策

1859年の開港により横浜は開国日本の象徴となり、内外から多くの人が集まり質の高い文化交流が生まれました。国内から集まった人々は、先進的な産業や文化を積極的に学ぼうとする「進取の気性」に富み、それぞれの出身地の文化をこの横浜で融合させようとする「開放性」を創り上げていきました。

日本の玄関として発展してきた横浜ですが、関東大震災(1923年)、横浜大空襲(1945年)、戦後の米軍接収など、いくつもの困難を乗り越えてきました。

このような困難を乗り越え、横浜市は未来の骨格を作るべく、みなとみらい21地区や高速鉄道、ベイブリッジの整備など大規模な都市計画を強力に押し進め、日本最大級の都市として発展してきました。

しかし、開港150周年を間近にした2004年当時、みなとみらい21地区が特色ある商業施設などの整備によってにぎわっていく一方で、開港以来横浜の中心となっていた関内地区などは、歴史を伝える西洋建築や近代建築などが少しずつ姿を消し、横浜らしい風景が薄れ、オフィスビルの空室率も増えるなど、経済・文化の両面で活力が失われつつありました。

この状況を脱し、再び魅力を取り戻していくために「クリエイティブシティ(創造都市)」という考え方に着目し、芸術や文化のもつ「創造性」をまちづくりに生かすことで、都市の新しい価値や魅力を生み出す「創造都市施策」が生まれました。

その一環として、歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な活動を発信する創造界限拠点の運営(2004年～)、映像分野における次世代育成を目的に映像文化都市(2005年～)、文化芸術と市民等の様々な主体をつなぐアーツコミッション・ヨコハマ(2007年～)を開始しました。

さらには3年に一度の現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」(2001年～)、国内外の舞台芸術関係者による制作・発表、交流の場「横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)」や、日本を代表するジャズフェスティバルである「横濱JAZZ PROMENADE」などアートプログラムを開催しています。

近年は、都心臨海部で培った創造性を生かしたまちづくりのノウハウを生かし、郊外部等にも取組を進めるなど、市民とともに「選ばれる都市・横浜」として持続的に発展していくことを目指しています。

## 創造界限拠点 歴史的建造物や公共空間等を活用し、創造的な活動を発信する

### 1 旧第一銀行横浜支店

#### 横浜の文化芸術創造都市施策発祥の地

市認定歴史的建造物である旧第一銀行横浜支店(1929年建築)は、2004年から横浜ならではの資源をまちづくりに生かす実験事業の場となり、その後、2021年まで市民の創造性を高め、地域協働を推進、まちの活性化に寄与する文化芸術創造都市施策の先駆けの場として活用されてきました。2025年には、まちの新たなにぎわいの創出や人々の豊かなライフスタイルの実現に向け「様々な人・もの・文化が交差する明るい公園のような『出会い、学び、育つ』場所へ」をテーマとした新たな施設「(仮称)BankPark YOKOHAMA」としてオープン、暮らしを彩る発信拠点として、工芸ギャラリーやクラフトカフェ、フラワーショップ等を展開、サーキュラーエコノミーの共創拠点ともなるシェアオフィスやラウンジを設け、子ども向けのSDGsスクール等も実施予定です。



### 2 急な坂スタジオ

#### 「稽古だけじゃない稽古場」から「作品と人が育つ場所」へ

1993年に市営結婚式場として開業した「老松会館」は、2006年から舞台芸術の創造拠点「急な坂スタジオ」として活用しています。結婚式場だった構造を生かし、演劇やダンスの稽古場としてスタジオやホール、和室などを用意しています。また、「作品と人が育つ場所」として、サポートアーティスト事業などを通じて、作品を創るための支援や、活動基盤を整えるための支援を行っています。これまでサポートしたアーティストが岸田國士戯曲賞を受賞するなど、日本の舞台芸術を支える存在となっています。



### 3 象の鼻テラス

#### 様々な人や異文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所

象の鼻テラスは、横浜開港の地「象の鼻地区」にある、文化観光交流拠点を兼ねた無料休憩施設です。横浜市・開港150周年事業として、象の鼻パークとともに整備され、2009年6月に開館しました。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、様々な人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーマンスアート、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。また、併設した象の鼻カフェでは、象の鼻テラスや象の鼻パークでのイベントやプログラムに連動したメニューの提供などを行っています。



撮影:DAICI ANO

撮影:DAICI ANO

### 4 地域再生まちづくり(初黄・日ノ出町地区)

#### 官民一体の、アートによるまちづくり

かつて、違法風俗営業を行う小規模店舗が連なっていた初黄・日ノ出町地区は、地域、警察、行政が一体となり環境浄化に取組み、2005年、県警の一斉摘発により違法店舗は閉鎖されました。その後、地域主体の認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンターを中心に、元小規模店舗や京急高架下などをアートの制作・発表の場として活用。アートフェス「黄金町バザール」を開催するなど、「アートによるまちづくり」を進め、地域内外の交流創出や地域の魅力発信に取り組んでいます。この取組は、2009年に安全・安心なまちづくり関係功労者表彰「内閣総理大臣賞」、2017年に国際交流基金「地球市民賞」を受賞するなど、国内外から高い評価を受けています。



撮影:阿部隆大



スピーク・クリプティック《From Our Hands To Our Many Mouths》2018年 撮影:笠木靖之



## 5 THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)

“スポーツ×クリエイティブ”をテーマに、  
新たな産業の創出を実現していくプラットフォーム

市指定有形文化財「旧関東財務局横浜財務事務所」(1928年建築)は、若手アーティストの活動拠点「ZAIM」として暫定活用された後、創造的産業を集積しにぎわい創出及び経済活性化につなぐ中核施設「THE BAYS」(運営:株式会社横浜DeNAベイスターズ)として2017年にオープンしました。“スポーツ×クリエイティブ”をテーマとした複合施設で、「日々の暮らし」に少し「野球文化」を加え、コミュニティを深める拠点となるクラフトピアダイニングやライフスタイルショップ、生活スタイルを創るスタジオがあり、シェアオフィス・コワーキングスペースでは、まちと共に歩んできたプロ野球チーム運営のノウハウを生かしたビジネススクールなどを展開しています。



©YDB

## 6 新高島駅地下1階展示施設

先進的な現代アートの紹介・発信の場

駅の地下倉庫を活用した展示場と、隣接する道路区域を含めた大空間を最大限に生かした文化芸術創造発信拠点として、2018年、アーティスト・クリエイターの集積を促し、各拠点とのネットワークを図りながら創造的な活動及び発信を行う「BankART Station」をオープン。2025年度からは、一般社団法人Ongoingが、新たにまちに開かれた先進的な現代アートと交流を目的とした拠点「Art Center NEW」として、展覧会や制作スタジオ、シンポジウムやワークショップなど、芸術や文化に関わる多種多様な試みにおいて、新たな価値観やこれまでになかった視点の数々を提案する“NEW”をコンセプトとした活動を展開します。



※イメージ

## 郊外部展開

(鶴見区小野町・保土ヶ谷区星川・港南区野庭町 他)

創造性を生かしたまちづくりを市全域へ

これまで都心臨海部を中心に展開してきた創造都市の取組は郊外部にも広がり始めています。鶴見区小野町では、象の鼻テラスの企画協力のもと、地域住民が主体となってまちなかで壁画展示を行う「鶴見パブリックアートプロジェクト」を行っています。南区、旭区、港北区、緑区、戸塚区では、地域のコミュニティ拠点にアーティストが滞在し、住民との交流を通じて創作活動を行う「ACYアーティスト・フェローシップ助成」を実施しています。また、2024年からは、郊外部における地域コミュニティの活性化を目的とした保土ヶ谷区の星川駅高架下行政区画の公民連携による創造的な活用や、港南区野庭町における団地活性化の取組を、横浜市のモデル事業として展開しています。



鶴見パブリックアートプロジェクト

## 助成・支援



加藤立(2023年度 ACYアーティスト・フェロー)「Abstract Face(on going)」  
(2023年9月、Co-coya[緑区]会場風景)

## アートミッション・ヨコハマ(ACY)

創造の担い手をつなぎ、協働を促すプログラム

アートミッション・ヨコハマは、2007年から市の補助事業として公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が運営しています。文化芸術と企業・市民等の様々な主体をつなぐ中間支援のプログラムとして、ワンストップ相談窓口を通じたアートやデザインに関わる相談支援や情報発信、ACYアーティスト・フェローシップ助成を行っています。また、横浜に集積したクリエイターが、公共空間を活用して自分たちの活動をまちに開くイベント「関内外OPEN!」や、アートをより身近にすることで、アートを生業とする人達の活動の場を提供することを目的にまちなかで開催するアートイベント「ミナトノアート」など、文化芸術のもつ創造性を活かしたまちづくりに資する様々なプロジェクトを展開しています。



関内外OPEN!11「道路のパークフェス」  
撮影:森本聡(カラーコーディネーション)

## ● 芸術不動産・BUKATSUDO

「不動産×クリエイティブ」で遊休不動産を再生

2007年から、関内・関外地区の遊休不動産を活用し、アーティスト・クリエイターの活動拠点を創出する芸術不動産事業を実施しています。これまで、横浜固有の戦後建築遺産「防火帯建築」でもある「泰生ビル」や「住吉町新井ビル」などの保全活用が実現しました。2021年には、ヨコハマ芸術不動産推進機構が設立され、不動産所有者や活動拠点を求めるアーティスト・クリエイターからの相談対応などを行っています。

また、2014年から、国指定重要文化財「ドックヤードガーデン」の一部を公民連携でクリエイティブに活用するドックヤードガーデン活用事業を進めています。「大人の部活が生まれる街のシェアスペース」をコンセプトに、みなとみらいのオフィスワーカーや居住者、来街者等が集い、活動を行う場「BUKATSUDO」として活用されています。



住吉町新井ビル



BUKATSUDO

## 映像文化都市

### ★ 東京藝術大学大学院映像研究科

映像分野における次世代を担う人材の育成

2004年、旧富士銀行横浜支店(1929年建築)は、歴史的建造物を活用した芸術文化創造の実験事業の第1号として「BankART1929 馬車道」となり、歴史的資産を現代に生かす試みが始まりました。その後、2005年に「映像文化都市」の実現を目指して横浜市は東京藝術大学大学院映像研究科を誘致し、映画専攻の校舎(馬車道校舎)として活用されています。映画専攻に続き、メディア映像専攻(元町中華街校舎)、アニメーション専攻(万国橋校舎)の計3専攻が設置され、横浜を舞台に映像分野における次世代クリエイターの育成が進められています。また、専門知識・技術を生かして、幅広い世代を対象とした公開講座や修士の作品展などを開催しています。



東京藝術大学大学院映像研究科 馬車道校舎



## 横浜で3年に一度世界に触れる、現代アートの国際展

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に一度開催する現代アートの国際展です。日本から現代アートの魅力を発信し、世界各国と交流しようという外務省の方針に沿って、国際交流基金と開催都市である横浜市が中心となり、2001年に第1回展を開催しました。第4回(2011年)以降は、横浜市及び横浜美術館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)が運営の主体となり、「アートでひらく」「世界とつながる」「まちにひろがる」の3つの目標を掲げ、文化芸術創造都市・横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与することを使命として回を重ねています。毎回ディレクターやテーマを変え、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するだけでなく新進のアーティストを広く紹介して、世界最新の現代アートの動向を提示し、世界情勢が激動する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い直してきました。次回9回展は2027年の開催を予定しており、より多くの方に親しまれ、横浜から新しい価値観と新たな文化を世界に届け、世界とつながる国際展となるよう実施します。



第8回横浜トリエンナーレ展示風景 撮影:富田了平 写真提供:横浜トリエンナーレ組織委員会



ニック・ケイブ「回転する森」2016(2020年再制作)(c)Nick Cave「ヨコハマトリエンナーレ2020」展示風景 撮影:大塚敬太 写真提供:横浜トリエンナーレ組織委員会



橋昇+室井尚「インセクト・ワールド・飛蝶」2001年「横浜トリエンナーレ2001」展示風景 撮影:黒川未来夫 写真提供:横浜トリエンナーレ組織委員会

## COLUMN 国際アートフェアとの連携

### Tokyo Gendai / 東京現代

Tokyo Gendai(東京現代)は、国内外のアーティストが一堂に会する世界水準の国際アートフェアです。国際的に評価されている現代アートギャラリーが世界各国から集結し、作品の展示や販売をするイベントで、2023年7月にパシフィコ横浜で初開催されました。本市では、横浜のアートシーンを知っていただく好機と捉え、国内外から訪れるアートファンを対象として、文化施設や創造界隈拠点を中心に、展覧会やツアーなどの連携プログラムを実施しています。



Tokyo Gendai, 2024



## 街全体をステージに ～今も昔もジャズは横浜～

横浜JAZZ PROMENADE(ジャズプロ)は、毎年秋に開催される日本を代表するジャズフェスティバルです。「街全体をステージに」を合言葉に1993年にスタートし、例年、プロ・アマ問わず多くのミュージシャンが参加し、数万人の観客が訪れます。横浜は古くからジャズが演奏されてきたまちで、ジャズは大切な文化資源の一つです。ジャズプロでは、国内外で活躍するミュージシャンによるホールライブやジャズクラブでのライブのほか、公園や商業施設などの公共空間でアマチュアバンドによるライブを行い、ジャズ文化によるまちの活性化やにぎわいを実現しています。また、運営は、多くの企業・団体のほか、公募で集まったボランティア「横浜ジャズグループ」に支えられており、ジャズプロは、まさに、まちと市民が一体となって創り上げる文化イベントとなっています。

## 横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)



## アジアでもっとも影響力のある 舞台芸術プラットフォーム

横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)は、国内外の舞台芸術関係者が公演プログラムやミーティングを通じて交流し、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報・インスピレーション・ネットワークを得るプラットフォームとして毎年冬に開催しています。1995年にTPAM(芸術見本市/Tokyo Performing Arts Market)として東京で始まり、2011年からは創造都市施策を推進する横浜での開催となり、期間中、主催・連携公演のほか、シンポジウムやラウンドテーブルを行っています。2022年からは、より身近な地域に展開することをめざして、交流拠点「YPAMフリンジセンター」を常設し、舞台芸術にかかわる相談窓口の設置や情報提供などを行っています。

## 国内外に広がるネットワーク

### 日中韓都市間文化交流事業

#### 東アジア文化都市2014横浜承継事業

2014年に横浜市が日本初代都市を務めた「東アジア文化都市」。ともに初代都市となった中国泉州市・韓国光州広域市と「東アジア文化都市 友好協力都市協定」を締結し、2015年以降も継続して、美術や音楽、パフォーマンス、伝統文化等の芸術団を相互に派遣するなど、文化芸術による都市間交流を行っています。



撮影:東間謙

### 創造都市ネットワーク日本

#### Creative City Network of Japan

創造都市ネットワーク日本は、創造都市の取組を推進する地方自治体等を支援するとともに、創造都市間の連携・交流を促進するためのプラットフォームとして、2013年1月に設立されました。創造都市の普及・発展を目的に、セミナーやミーティングを継続的に開催しており、横浜市は幹事団体として参画しています。